

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
102 202	言語文化	2	1 2	総合学科 工業科	必修

履修条件、選択上の留意事項等
無し。

科目の目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
② 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価の方法	
学習内容に関心を持ち授業での自身の考えをまとめ発表する意欲、課題を見つけ解決に向けて取り組む態度等を多面的に評価する。また、課題の達成状況により、知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。これらを含め、上記評価規準に従って総合的に評価を行う。	

学習計画						
月	単元(項目)	題材(使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	小説を楽しむ	「とんかつ」(三浦哲郎)	文章を正確に読み取り、鑑賞に活かすことを理解することができる。	○		
			状況を正確に読み取り、心情を客観的に読むことができる。		○	
			小説への関心を高め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。			○
5	古文の世界を楽しむ	古文に親しもう	古典仮名遣いの読み、表記を学び、古文の読解の基礎知識を習得できる。 【言語活動】	○		
		宇治拾遺物語	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。	○		
		「検非違使忠明」	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもつことができる。		○	○
	【中間テスト】			○	○	
6	受け継がれる古典	「羅生門」(芥川龍之介)	文語調の文体に慣れながら、現代の感覚で鑑賞できる。	○		
			作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。		○	
7			言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。			○
	【期末テスト】			○	○	

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
8	古典の世界に親しむ	「ジョブスと『徒然草』」	わが国の伝統や文化について書かれた随筆を読み、わが国の言語文化について論述することができる。【言語活動】 「徒然草」が書かれた背景を学び、現代人、外国人にまで通じる価値観や日本文化の姿を読み取ることができる。			○
	現代にも生きる教え	徒然草「高名の木登り」 徒然草「ある人、弓射ることを習ふに」	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○
	【中間テスト】			○	○	
10	「ことば」を吟味する	「舟を編む」 (三浦しをん)	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○
	日本語の中に生きる漢文	訓読のきまり 格言	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につける。	○	○	○
12	【期末テスト】			○	○	
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1	故事と成語	「漁夫の利」 「虎の威を借る狐」	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○
	和歌の世界	探求の扉 和歌を訳す 日本の和歌 「古今和歌集」 (古典分野) と 詩歌の世界 短歌 (現代文分野)	和歌を読み、互いの解釈の違い等を話し合い、まとめることができる。【言語活動】 古典または現代の短歌を題材に、現代の言葉で訳しながら、作者が表現したい世界を読み取ることができる。 時代を超えて、日本の言語文化に流れる感性を理解し、言葉を通して社会に関わろうとする態度を育て、言語と文化への意識を高めようとする態度を身につける。	○	○	○
	【学年末テスト】			○	○	

書くこと	5～10時間程度
読むこと【古典】	40～45時間程度
読むこと【近代以降の文章】	20時間程度